法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

徳之島方言の動詞の活用

岡村，隆博 / 松本，泰丈

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
沖縄文化研究
(巻 / Volume)
11
(開始ページ / Start Page)
123
(終了ページ / End Page)
157
(発行年 / Year)
1985-03-15
(URL)
https://doi.org/10.15002/00002952

Hosei University Repository

徳之島方言の動詞の活用

岡村　隆博
松本　泰丈

はじめに

筆者らはさきに，「徳之島方言の文法」(『国文学　解釈と鑑賞』1984．1月号　至文堂）において，徳之島天城町浅間方言の動詞の活用体系を，終止形に関して整理をこころみた。本稿はそれにひきつづいて，連用形，連体形，条件形など，終止形以外の活用形について展望し活用体系をとらえようとするものである。作業は前回と同様の分担で，岡村と松本が共同してすすめた。今回の記述にはいるまえに，「徳之島方言の文法」から，肯定動詞とうちけし動詞の終止形の活用表をつぎのページにとりだしてかかげる。方言の表記は前稿にしたがうが，語頭の母音のまえで、' に対立する?は省略する。

動詞の終止形以外の活用形がしめす体系性をどうとらえるかは，標準語についても，各方言についても，なお問題をのこしている。これは徳之島方言をはじめとする奄美諸方言も例外ではない。以下では，徳之島方言の動詞の非終止形を，テンス体系のあらわれかたのちがいや，主語のありなしなどによって，いくつかの下位カテゴリーに分類して記述する。そのさい，すでにとりだされた標準語の

Hosei University Repository

徳之島（天城町浅間）方言の「動詞」の終止形活用表

肯定動詞　終止形

ムード ＼ テンス		現在形	過去形	ヲリ過去形	ヲリヲリ過去形
のべたて法					
断定					
m語尾形		tujuN	tutaN	tujutaN	tujujutaN
ヲリ形		tujui	tu:tI	tuju:tI	tujuju:tI
連用終止形（旧連用形）		tui	(tuijataN)		
動名詞形		tuju:sI	tuta:sI	tujuta:sI	
かかりむすび形		tujuNnu	tutaNnu	tujutaNnu	
推量					
推定形-be:形		tujuNbê:	tutaNbê:	tujutaNbê:	tujujutaNbê:
第1推量形-ro:形		tujuro:	tutaro:	tujutaro:	tujujutaro:
第2推量形-sjarê:形		tujuisjare:	tutIisjarê:	tuju:tIisjarê:	tujuju:tIisjarê:
うたがい＝たずね法					
一般	1	tuju:raja:	tuta:raja:	tujuta:raja:	tujujuta:raja:
	2	tujuija:	tu:tIja:	tuju:tIja:	tujuju:tIja:
疑問詞つき	1	tuju:kaja:	tuta:kaja:	tujuta:kaja:	tujujuta:kaja:
	2	tujuNgaja:	tutaNgaja:	tujutaNgaja:	tujujutaNgaja:
たずね法					
一般たずね		tuju:mI	tutê:	tujutê:	tujujutê:
		tujuNsjê:	(tutaNsjê:)	(tujutaNsjê:)	tujujutaNsjê:
	2	tuija:	tuIja:tija:		
	3	tuijI	tuijatê:		
	4	tuisjê:	(tuijansjê:)		
疑問詞つきたずね	1	tujuNga	tutaNga	tujutaNga	tujujutaNga
	2	tujuNdu	tutaNdu	tujutaNdu	tujujutaNdu
	3	tuiga	tuijataNga		
	4	tuidu	tuijataNdu		
はたらきかけ法					
勧誘・意志	1	tura:			
		(tura:dê:)			
	2	tujura:			
		(tujura:dê:)			
	3	turaNna			
	4	tujuraNna			
命令	1	turo:			
		(turo:jê:)			
	2	tujuro:			
		(tujuro:dê:)			
命令（つたえ）	1	tu:rI(?cjI)			
	2	tuju:rI(?cjI)			
たのみ	1	tu:rIjo:			
	2	tuju:rIjo:			
すすめ		tu:tIka			
強いすすめ		turadaN			
弱いすすめ		turI:wa			

うちけし動詞　終止形

ムード ＼ テンス		現在形	過去形
のべたて法			
断定			
m語尾形		turaN(da:)	turadataN(da:)
ヲリ形		tura:zI	turada:tI(da:)
連用終止形（旧連用形）		tuinaN(da:)	tui anadataNOda:)
動名詞形		turansI	turadata:sI
かかりむすび形		turaNnu	turadataNnu
推量			
推定形-be:形		turaNbê:	turadataNbê:
第1推量形		turumê:	turadataro:
第2推量形		turaNsjarê:	turada:tIsjarê:
うたがい＝たずね法			
一般	1	————	turadata:raja:
	2	turaNja:	turada:tIja:
疑問詞つき	1	turaNkaja:	turadata:kaja:
	2	turaNgaja:	turadataNgaja:
たずね法			
一般たずね	1	tura:mI	turadatê:
		(turaNsjê:)	(turadataNsjê:)別の意味＝はたらきになる。
	2	tuinaNja:	tui anada:tIja:
	3	tuina:mI	tui anadatê:
	(4)	(tuinaNsjê:)	(tui anadataNsje:)別の意味＝はたらきになる。
疑問詞つきたずね	1	turaNga	turadataNga
	2	turaNdu	turadataNdu
	3	tuinaNga	tui anadataNga
	4	tuinaNdu	tui anadataNdu
はたらきかけ法			
命令（禁止）	1	(tuina tuNna	
	2	tujuNna	
たのみ	1	(tuinajo: tuNnajo:	
	2	tujuNnajo:	

Hosei University Repository

非終止形のカテゴリーも念頭においている結果，方言の独自性がとりだせないところは，標準語のワクにひかれてしまっているところがありうるし，標準語の語形につくりの対応する方言の語形は，問題のワクに関係なくても，その個所でふれたばあいがある。標準語の動詞の活用体系は，鈴木重幸「『日本語文法・形態論』の問題点」（『教育国語』51　1977，むぎ書房）などにしめされている。なお，徳之島方言のうち，徳之島町井之川方言は，法政大学沖縄文化研究所『琉球の方言　5　奄美徳之島井之川』（1979）に，文法に関しても記述がある。

(1)連体形

肯定動詞連体形				
テンス／みとめかた	すぎさらず	シタ すぎさり	シヨッタ すぎさり	シヨリヨッタ すぎさり
肯　　定	tujuN	tutaN	tujutaN	(tujujutaN)

肯定動詞の連体形は，テンスのうえで，はたらきかけ法以外の終止形のばあいとおなじく，現在形，過去形，ヲリ過去形，ヲリヲリ過去形のよっつの系列がそろっている。ただし，シヨリヨッタ過去形は，あることはあるが，ほとんどつかわない。(連体形以外のかたちで，この事情はおなじなので，以下ではパラダイムからはぶいてある。）つくりをみると，m 語尾終止形と音声形式において一致しているが，起原的には両者はひとしくない。連体形は，それぞれ tujuru，tutaru，tujutaru，tujujutaru から，語形末が音声的に変化してできたものとかんがえられる。なお，浅間方言では，井之川方言などとちがって，～du をうけるかかりむすび形も，連体形同様，～ru 形でなく～N 形になっている。

△kju: nai tujuN ʔcju:ja taNda:rugaja:. きょうなえ(を)とるひとはだれだれかなあ。

△kju: nai tutaN ʔcju:ja taru:gaʔji:. きょうなえをとったひとはだれかね。

△kuzjuNtanaNja nai tujutaN ʔcju:nu nu: na:tĩ kutu:sĩja turaraNgaja:. 去年まではなえをとりよったひとがなぜことしはとれないのかなあ。

なお，連体形現在 tujuN ～で，…シテイル～という現在の継続中のうごきをあらわすことはできないようである。このときはシトル系列の派生動詞形 tu:tuN をつかう。この系列については稿をあらためてふれる。また，奄美大島北部方言にみられる，turo hazĩ のような推量連体形も存在しない。

うちけし動詞の連体形は，肯定連体形とちがって，現在形と過去形しかないが，これも終止形のばあいと同様である。

うちけし動詞連体形		
テンス／みとめかた	すぎさらず	すぎさり
う　ち　け　し	turaN	turadataN

△nai turaN ʔcju:ja ta: ʔwĩ:rĩjo:. なえをとらないひとは田をうえろよ。

△ʔkinu: nai turadataN ʔcju:ja kju:ja naitui sjĩ:jo:. きのうなえをと

Hosei University Repository

らなかったひとはきょうはなえとりしろよ。

うちけし連体形 turaN, turadataN は，活用形の相互の派生関係のうえで，あとでふれる動名詞 turaNsï, turadataNsï の土台になっている。

(2) 連用形

肯定動詞連用形	
シテ連用形	tu:tï
シテカラ形	tu:tïgëN
スルマデ形 1	tujuNkja
スルマデ形 2	tujuNtanaN
シタリ(例示)形	tutai

連用形は，連体形同様，ムードの対立をもたない。また，連体形とちがって，テンスのカテゴリーもない。代表的な連用形 tu:tï でしめせば，それが文のなかで中止的につかわれたとき，そのムード，テンスは，文末の終止的な述語によって代行される。この点，標準語と同様である。

kï:ka:ʔcï nuqtï: ʔkunïN tu:ro:. 木へのぼってミカンをとれ。(…nuro:,…)

△kï:ka:ʔcï nuqtï: ʔkunïN tu:tïda:. 木へのぼってミカンをとったよ。(…nuqtïda:,…)

また，徳之島方言のシテ連用形は，継起的なうごきのほかに，同時的なうごきをしめすこともできる。

△tïNtoganasïnu (naikaminu ともいう) natï: amïga: hu:tï ʔcja:ga:. unë:. かみなりがなってあめまでふってきたが，ほら。(継起的)

△arï:ja naʔcjï: kwë:ha sjï:da:. かれはないてくやしがったよ。(同時的)

ただしシトッテ連用形のつぎのような用法は標準語ではいいにくいが，奄美方言にはみられる。

△sjakï: nu:dutï abïNnajo:. さけをのんでいてさけぶ(おらぶ)なよ。

連用形をみると，シテ形のほかの，シヨッテ形 tuju:tï やシ形（旧連用形）tui は，中止的な用法はない。シヨッテ形は終止形過去に転籍しているし，旧連用形は終止的に，または動名詞的につかわれて，単独の中止用法をふりおとしている。なお，シテ連用形も，終止的にはたらくものが，同音形式として分化している。

シテ連用形，および，もとは連用形だったシヨッテ形は，おなじ連用形に属するシテカラ形 tu:tïgëN や，あとでとりあげる条件形 tu:tïka, tuju:tïka, 譲歩形 tu:tïN, tu:tïNba などのつくりの土台になっている。

シテカラ連用形 tu:tïgëN は，つくりのうえでtu:tï-gëN と分析できそうだが，-gëN というかたちは，ここ以外にはつかわれない。

△nai tu:tïgëN asjï: kama:ja:. なえをとってから昼食をたべようね。

ースルマデの意味になるかたちも，シテカラ形につづいて，連用形のメンバーにくわえておく。

△nai tujuNkja juʔku:turïjo:. なえをとるまでやすんでいなさいよ。

Hosei University Repository

△nai tujuNtanaN juʔkuːturījoː. なえをとるまでやすんでいなさいよ。

スルマデ形 1 tujuNkja と 2 tujuNtanaN は，うえの例でもほとんどおなじで，区別をつけがたいが，アスペクチュアルな面にちがいがみとめられる。つまり，tujuNkja のトルマデだと，その動作にとりかかるまでしかふくまないが，tujuNtanaN のトルマデは，その動作のはじまりからおわりまでをふくむようなニュアンスになる。

tujuNtanaN は，tuju-NtanaN と分析できる。-NtanaN は，ふつう，naːhaNtanaN 那覇マデ，joːnëNtanaN コヨイマデのように，標準語のマデ格にあたる語形をつくる格助辞としてはたらく。 その点では，tujuNtanaN は標準語のトルマデにあたるといっていい。ここでとりだされる語幹の tuju- は，チエンバレンのいう短縮形 apocopated form である。-NtanaN が名詞の語形をつくるほうでしっかりしているので，tujuN-tanaN などという異分析ははいりこまない。

一方，tujuNkja のほうは，つくりのうえでは，あとでふれる順接＝条件をあらわす接続形 tutaNkjaː と一系列をなして，接続形現在—過去と対立しているようにみえる。しかし，tujuNkja は tutaNkjaː と，テンス以外にも，意味内容のうえであきらかなちがいがあって，つくりが同系列だからといって，両者を接続形のワクにおしこめることはできない。

△waga nai tujuNkja maqcjurījoː. わたしがなえをとるまでまっていろよ。

△waga nai tutaNkjaː kjuːja hwēːtīdaː. わたしがなえをとったのできょうははやまった(ハヤクオワッタ)よ。

スルマデ形 tujuNkja にみちびかれるクローズの主語は，うえのように，格助辞～ga で，また～nu であらわれる。それらの例をおぎなっておく。

△arīːga kjuNkja ʔjaːja maqcjurījoː. かれがくるまできみはまっていろよ。

△tuinu otojuNkja waNja ʔwīːtuːtīdaː. にわとりのなくまでわたしはおきていたよ。

シタリ形 tutai は標準語とおなじく中止的にならべたてるときにもちいる。

△nai tutai taː ʔwīːtai isjugwaːhatīdaː. なえをとったり田をうえたりいそがしかったよ。

これも標準語と同様だが，～シタリスルにあたるときは，ふたつ以上ならべなくてもいい。

△kjuːja duNʔcjuisjī nai tuːtī taː ʔwīːtai sjaqtu ʔuqsjangēː sjaːradaːtīdaː. きょうは自分ひとりでなえをとって，田をうえたりしたので，そんなにまでできなかったよ。

うちけし動詞連用形		
シナイデ連用形	1	turaN goN
	2	(turaːzī / turadaːtī)
	3	
シナカッタリ形		turadatai

うちけしの連用形は，肯定動詞にあてはめれば，シテ連用形とシタリ形にあたるものしかあらわれない。

Hosei University Repository

標準語のシナイデ，セズ(ニ)…にあたるかたちとしてふつうにつかわれる turaN goN は，直訳すればトランヨーニになる分析的なくみたてである。tura:zī はトラズに対応し，turada:tī はトラナクテ，トラナイデにちかいが，これらは終止形の用法がふつうである。しかし，中止的といえる用法もみとめられる。

turaN goN は，直訳どおりのトラナイヨウニの意味ではあらわれにくいようだ。そのときは turaN gē:sī をつかう。(sjakī: numaN gē:sī sjī:jo:. さけをのまないようにしろよ。)

△sjakī:ja numaN goN mudu:tīda:. さけはのまないでもどったよ。

△bu:sī turaN goN kara:zī sjagī:tīda:. ぼうしをとらないであたまをさげたよ。

△abīte:.—abīraN goN ʔcjī:da:. よんだかい？—よばないできたよ。

△arītu:ja sīma: turaN goN mudu:rījo:. かれとはすもうをとらないでかえれよ。

△arīNba sjakī: numaN goN na:tīda:. かれもさけをのまなくなったよ。

最後の例のように，標準語シナクナルのシナクに対応するばあいにも，turaN goN 形があらわれる。

turaN goN 連用形は，例文にみるように，テンスのうえでは主文のテンスにいろぞめされていて，みずからは積極的にテンスをあらわさない。しかし，tura:zī, turada:tī の中止的とみえる用法は，テンス性があるように感じられ，tura:zī は現在＝未来，turada:tī は過去をおもわせるようである。だとすれば，これらふたつのかたちの中止用法といえるものは，終止形に移行した tura:zī, turada:tī と，テンスの対立の点で共通する。turaN goN 連用形とこれらの中止用法とをひとくくりにすることは問題かもしれない。

△arī:ja tura:zī, kurī:gadu tu:tījo. かれはとらず，これ(ヒト)が(ぞ)とったよ。

△arī:ja turada:tī, kurī:du tu:tīda:. あれはとらないで，これをぞとったよ。

tura:zī 形のつぎのような並列用法は，tujui 形のそれに対応して，用法のうえでは～スルシとか～シナイシに対応する。ここにも turaN goN 連用形とこのかたちのまとめにくさがあらわれている。

△arī:ja sīmaNba tura:zī, hasīrīNba sja:zī, nuNba sja:raNda:. かれはすもうもとらず（とらないし），はしりもせず（しないし），なにもできないよ。

turada:tī にあたるかたちは，条件形 turada:tīka トラナカッタラ，譲歩形 turada:tīNba トラナクテモなどのつくりの土台としてもはたらくが，それぞれの項でふれるように，これらもテンス的には過去とのつながりが感じられる。

なお，〈本ヲヨマナクテコマル。〉のヨマナクテにあたる連用形はつかえないので，理由，原因をあらわす接続形で表現する。

△hoN jumaN muN na:tī ʔkja:majuN(da:). 本をよまないものだからこまる(よ)。

tutai のうちけしにあたる turadatai トラナカッタリは用例だけあげておく。

△nai tutai turadatai tajuina 'iNga:da:. なえをとったりとらなかったり，かってなおとこ(だ)よ。

Hosei University Repository

(3) 連用＝副動詞

副動詞（肯定）	
同時形	turagacī:na
シシナ形	(tuisīrī)
目的形	tuiga

標準語 ～シナガラ（…スル），～シニ（…ヘイク）のような，同時的におこなわれる動作や，目的的な動作を副次的にあらわすのにつかうかたちを副動詞とよぶ。奄美諸方言でも喜界島方言などには，連用形と同様に，独自の主語をもつことのある副動詞があるので，連用形とのつながりを考慮して，連用＝副動詞といっておく。うちけし動詞にはこのかたちはでてこない。

徳之島方言では，連用＝副動詞の同時形に turagacī:na，目的副動詞に tuiga がある。ほかに tuisīrī にあたるかたちが動詞によって固定的につかわれるが，これはトリシナにあたるとおもわれる。奄美大島南部方言では tuisirja，喜界島方言では tuisa:(＜tuisja:＜tuisirja）のようなかたちであらわれ，両方ともトリナガラの意味である。徳之島の turagacī:na の tura-は，他の奄美諸方言にてらして turja-からの変化とかんがえられ，さらにその土台には旧連用形の turi-があったものとおもわれる。-gacī:na のところは，-ガテラのようなかたちを連想させるし，つぎの最初の例のように，意味もそれに照応するものがある。目的副動詞 tuiga のつくりは，奄美大島方言などと同様である。

△ʔjaNba ʔkunīN turagacī:na ʔasībi:ga kuNna. きみもみかんをとりがてらあそびにこないか。

△sjakī: numagacī:na ju: muN kamajuN muN zjaja:. さけをのみながらよく（も）もの（が）くえるものだね。

△hatēka:cī ikjuN dukiNja ikisīrī kē:sīrī kuigjo: sjī ikjuNda:. はたけへいくときは，いきしなかえりしなこえかけをしていくよ。

△ʔjaNba ʔkunīN tuiga kwa:. きみもみかんをとりにおいで。

△sjakī: numi:ga izjaqtu na:ja ja:tīda:. さけをのみにいったらるす（＜ムナヤ）だったよ。

徳之島方言の（tuisīrī）にあたる喜界島方言の tuisa: や喜界島の別の副動詞形 tuja:cju: などは，さきにふれた独自の主語に関して，連用形なみにそれをもつことがある。しかし，徳之島の tuisīrī 形は，文例のような固定したいいまわしであらわれるだけで，どの動詞にもあるかたちではないので（tujuN にはない），独自の主語は確認できなかった。

なお，標準語において副動詞としてつかわれる，連用形をかさねたトリトリ，シイシイ…のかたちの，旧連用形くりかえしの同時形は，徳之島方言にはみられない。ただし，動詞のくりかえしのかたちは，単語によっては（tuitui はない），～ sjuN のかたちでつかわれるので，参考までに例文をあげておく。

△uqsjīga: ʔcju: ʔkacjī:kacjī sjuNna. そんなにまでひとをさわるな。

△ʔjaga tacju:tacju sju:tīka sjīwasīna:haNda:. きみがたってそわそわしていると不安だよ。

△nu:ga uqsjī: kadakada: sjī: nē:sja:ru sīmasī:ja:. なんでそんなにたべるかたちだけして（なめなめして）あさめしをすませるの。

Hosei University Repository

(4) 条件形

肯定動詞条件形 (1)	
シテ(カラ) 条件形	tu:tīka
シヨッテ(カラ)条件形	tuju:tīka
スルト形	tuju:tu
旧スレバ形	(turība)

徳之島方言の条件形は，語形のつくりの点でも，条件形の中心部分における語形相互のパラディグマチックな対立の点でも，奄美諸方言のなかでは特殊である。まず，つくりをみると，シテ連用形がベースになっていて，それに接辞-ka をつけてできるかたちがある。この-ka は，上村孝二「奄美諸島方言の動詞活用の調査」(『鹿児島大学文科報告』10，1961)，内間直仁「徳之島井之川方言の文法」もいうように，-kara のすりきれたものであって，tu:tīka になお～シテカラの意味が感じられるばあいも，浅間方言にある。(シテカラ条件形のうしろふたつの例文参照。) ～ka の条件形には tuju:tī-ka もあるが，これからとりだされる tuju:tī-と同形のシヨッテ連用形は，さきにみたように，この方言にはいまはない。よって，シヨッテ条件形 tuju:tīka は，tuju:tī が過去終止形のメンバーに転出するまえの，機能的にも連用形だった時期に，そこからつくりのうえで派生したものということになる。tu:tīka, tuju:tīka のようなシテカラ系の条件形は，古代日本語トレバ，トラバ系の条件形を中心とする他の奄美諸方言にはみられない。なお，tujuju:tīka はトリヨッタラにあたることになるがほとんどつかわない。

スルト形とした tuju:tu は，かたちのうえからは，tutaqtu, tujutaqtu のような，あとにでる接続形のかたちとまとまるかにみえる。しかし，意味のうえで，tuju:tu は～スルトであって，tutaqtu, tujutaqtu の順接的な～シタノデとちがう。このことと，他の奄美方言にスルト条件形がないうえ，～qtu 接続形に現在形の欠如がみられたりする(奄美大島南部の諸鈍方言でいえば nudaqtu–numjutaqtu という接続形系列は×numjuqtu をかく)のとは，一連の現象かもしれない。

他の奄美諸方言と共通のスレバ条件形 sīrība は，徳之島方言ではうたことばにつかわれるだけである。

△kazjī:nu hu:cjīka 'ugi:ja ʔkugē:da:. かぜがふけばキビはたおれ(る)よ。

△ʔcju:ʔa:mī ʔcjī:ka sīda:ku najuijo:. ひとあめきたらすずしくなるよ。

△mī:ga hutono:kacī ikju:tīka waNja ikaNda:. にいさんが平土野へいくならわたしはいかないよ。

△sjumu:cī ju:dīka mudusījo:. 本をよんだら(≒よんでから) もどせよ。

△hatē: ucīʔu:watīka ikjuijo:. はたけをうちおわったら(≒うちおわってから)いくよ。

△arī: sjo:sjagījju:tu i:kusjaido:. かれをいじめるとしかられるぞ。

△arī:ga hukju:tu 'juta:haN muNja, 'i: utu izjasjuNda:. かれがふくと(ふくなら)いいのにねえ，いいおとをだすよ。

△harunu ʔkuguʔkuguja amī hurī:ba tamaru. hurazju sju:tī tamaru kumanu jasīki. はたけのくぼちは，あめ(が)ふればたまる。ふらずしてたまる，ここのやしき(よ)。

Hosei University Repository

tu:tīka 条件形と turība 条件形が文体的には同一レベルであらわれないので，スレバ，シタラのつかいわけははなしことばでははっきりせず，もっぱら tu:tīka 形がつかわれる。turība 形は，うえの例文（正月うた）のようにうたことばにあらわれるが，日常はなしことばでは，共同執筆者のひとりで浅間出身の岡村の感覚からすると，大島方面の方言のようにおもえて，つかえない。

ここまでにみてきた徳之島方言の条件形 tu:tīka 以下 turība までは，パラダイムからもわかるように，語形の対立のしかたの点で，テンスのワクをもたないなど，連用形に連続する面がある。これは，おなじ連続性をもつ標準語からみると，当然すぎてかえってわかりにくいかもしれない。しかし，徳之島方言にも，他の奄美諸方言とおなじく，テンス的な対立のみとめられる条件形が，条件形のつくりの中心をはなれた分析的なくみたてとして存在する。二種の条件形を，もっともめだつそれぞれの特徴をとりだしてよびわけるとすれば，はじめにあげたものは，機能＝意味的な特徴にそって連用＝条件形，これからあげるものは，つくりの特徴からくみたて条件形とすることができる。しかし，くみたてのきれめが意識されることはないようだ。くみたて条件形には，ふたつあるが，それぞれ，ナル，スルの連用＝条件形を形式化してとりこんでいる。

肯定動詞条件形 (2)			
条件形＼テンス	すぎさらず	シタすぎさり	シヨッタすぎさり
na:tīka 形	tujuN na:tīka tui na:tīka	tutaN na:tīka	tujutaN na:tīka
-ni sjī:ka 形	tujuNni sjī:ka tuini sjī:ka	tutaNni sjī:ka	tujutaNni sjī:ka

△mī:ga hutono:kacī ikjuN na:tīka waNba sjo:tī iko:jë:. にいさんが平土野へいくなら，わたしもつれていってよ。

△mī:ga hutono:kacī iki na:tīka waNba ikicja:hai. にいさんが平土野へいくなら，わたしもいきたい。

△mī:ga hutono:kacī ikjuNni sjī:ka taNbaqtī ʔkwi:raNna. にいさんが平土野へいくなら，たのまれてくれないか。

△mī:ga hutono:kacī iki:ni sjī:ka aNzja: ko:tī ʔcjī: ʔkwī:raNna. にいさんが平土野へいくなら，げたをかってきてくれないか。

ここにあげたくみたて条件形のかたちは，一般的には，すでにあげた連用＝条件形の tuju:tika で表現する。それにくらべてくみたて条件形は，仮定性にやや強調の意味があるほかに，おおきなつかいわけは感じられない。

ついでながら，うえの例文のうち，i:ki na:tīka, iki:ni sjī:ka は，hutono iki: na:tīka (iki:ni sjī:ka) のような，-ka:cī のつかないかたちがとれるが，ikjuN na:tīka や ikjuNni sjī:ka は，-kacī のつかないかたちはあまりなじまない。

動詞連体形と形式名詞とのくみあわせが，機能＝意味的に条件形相当ではたらくことは，標準語の～シタ以上(ハ)，～シタウエハなどにみられるが，徳之島方言にも tutaN ʔwī:ka トッタナラ（＜トッタウエハ）がある。このときも～ ʔwī:ka と-ka があらわれている。

△'jeito: ʔcītaN ʔwī:ka ʔjaNnīNba 'wē:juijo:. たくさんつったならきみにもわけるよ。

うちけし条件形には，～ka 系の turada:tīka のほかに，～ba 系の turaNba がかろうじてかおをみせている。前者は徳之島方言特有，

Hosei University Repository

後者は奄美大島方言などにも，ひんぱんにあらわれる。

うちけし動詞条件形	
シナイデ(カラ)形	turada:tīka
旧セネバ形	turaNba

△ ʔjaga: turada:tīka waga tuida:. きみがとらなければぼくがとるよ。

△amī:nu hurada:tīka taNba ʔwī: naraNja:. あめがふらないと田もうえられないねえ。

△hatarakada:tīka muN kamasjaNda:. はたらかないならものをくわさんぞ。

△isjugwa:tī ikada:tīka uʔkurī:da:. いそいでいかなかったらおくれるよ。

△ʔkibaraNba mi:sī kamaraNda: はたらかないとめしがくえないぞ。

△arī:ga nai turaNba ʔwī:raraNda:. かれがなえをとらなければうえられない。

△ʔN:danaN turaNba nīN goN nai:da:. はやくとらないとなくなるよ。

turanNba 条件形は，例文のように，～シナイトイケナイ，～シナイト～デキナイや～シナイトナクナルのような，きまった帰結へとつづく傾向がある。

条件形は，あとに～du をつけてとりたてられることがある。こうして，tu:tīkadu, tuju:tīkadu などのかたちがありうる。～ja でとりたてた (tu:tīkaja)のようなかたちはない。

△arī:ga nai tu:tīkadu ʔwī:rajuNnu. かれがなえをとったら(ぞ)うえられる(が)。

△arī:ga kjuNba tuju:tīkadu i:kusjajuNnu. かれがきょうもとれば(ぞ) しかられる(が)。

-du とりたての例文につけた直訳では意味＝ニュアンスがつたわっていないと感じられるばあいがある。たとえば，うえのはじめの例では，この例文とおなじ意味のふつうの文は，arī:ga nai turaNba ʔwī:raraNda:. (かれがなえをとらなければうえられない。)であって，～du…～nu をとりはずした文 arī:ga nai tu:tīka ʔwī:rajuN. とはへだたりがある。徳之島，奄美大島方言などで，～du aN. が～シカナイと対応しているのと同様の傾向である。

うちけし動詞条件形(2)		
条件形＼テンス	すぎさらず	すぎさり
-ni sjī:ka 形	turaNni sjī:ka	turadataNni sjī:ka

うちけしのくみたて条件形としてかんがえられるかたちのうち，turaNni sjī:ka, turadataNni sjī:ka は，徳之島浅間方言でつかうが，turaN na:tīka, turadataN na:tīka は島内のどこかよそのシマ(集落)の方言のかたちのように感じられる。

(5) 譲歩形

譲歩形(逆条件形)は，標準語で～シテモ，はなしことば的には～シタッテのかたちであらわれる。奄美諸方言をみわたすと，つくり

Hosei University Repository

にふたつの系統がある。ひとつは，標準語系のシテモ，シタッテ(モ)とおなじか，それにちかいかたちで，もうひとつは，～ba 条件形をベースにして，それに-モにあたる助辞を膠着させた～baN(～bam)のようなかたちである。両系列が共存しているところでは，後者のほうがふるいようだ。

肯定動詞譲歩形			
かたち＼テンス	すぎさらず	シタすぎさり	シヨッタすぎさり
～tīN 形	tu:tīN	tutaNtīN	tujutaNtīN
～tīNba 形	tu:tīNba	tutaNtīNba	tujutaNtīNba

ところが，徳之島方言では，～ba 条件形が極度におとろえてしまったので，それを土台にした譲歩形もあらわれようがない。譲歩形としては，シテモ系列に対応する二種類のバリエーションが，かたちのうえではみっつのテンスででてくるにすぎない。シテカラ形起原の徳之島方言どくとくの条件形は，くみたて条件形をふくめて，譲歩形つくりのベースとしてはつかえない。

～tīN, ～tīNba（動詞によってはシテ中止形の～tī が音声的にあらわれないことがあるが，ほとんどの譲歩形をおおう～tī～をいれてしめしておく）というバリエーションをくらべてみると，テンス系列によって対立のしかたにちがいがある。すぎさらず系列の tu:tīN, tu:tīNba では，前者はトッテモトラナクテモにあたるような，きまったくみあわせでないとつかいにくい。それに対して，後者にはそういう制限はなく，ひろくつかわれていて，前者とはおなじ平面で対立していない感じである。

△naija tu:tīN turada:tīN mazī:na cja: numo:. なえはとってもとらなくても一緒に茶をのめ。

△arī:ga nai tu:tīNba waNja tui ba:da:. かれがなえをとっても，わたしはとるのはいやだ。

△ikja: kaNgē:tīNba wakaraNda:. いくらかんがえてもわからんよ。

△kuN warē:ja ikja: maNgē:tīNba nakaNda:. このこどもはいくらころんでもなかんよ。

△ʔjaga: ikja: abī:tīNba waNja iqsjaNtīN ikaNda:. きみがいくらよんでもわたしはどうしたっていかないよ。

すぎさり系列の tutaNtīN, tujutaNtīN と，それぞれの tutaNtīNba, tujutaNtīNba とをくらべると，つくりのうえで -ba をそえた後者のほうは，あきらかに強調の意味・ニュアンスがくわわる。

△ikja: ʔkibataNtīN bugīNja nararaN. いくらはたらいたって，かねもちにはなれない。

△aNnje:ga ikja: i:kucjaNtīN, ʔma:gaNkjaja ʔkikaN goN asīdu:tīda:. ばあちゃんがいくらしかったって，まごたちはきかないであそんでいたよ。

△arī:ga nai tutaNtīN kasjī:ga: naraNda:. かれがなえをとったとて，加勢にまではならないよ。

△muka:sīja nai tujutaNtīN ʔna: turaradaːtīka jui sjīNba ju:zī nī Nja:. むかしはなえをとりよったにしても，いまとらないならば，ユイ(加勢だのみ)をしても用をなさないね。

さいごの用例の tujutaNtīN はシヨッタッテ譲歩形，なおこの用例中の sjīNba はそのままシテモ形。つぎに～Nba 形を，シタッテ，シヨッタッテ形の順にあげておく。

Hosei University Repository

△nai tutaNtīNba taga ʔwī:ga. なえをとったとてだれがうえるのか。

△muka:sīja tujutaNtīNba ʔna:ja turaraNsī. むかしはとったとしてもいまはとれないじゃないか。

シタッテ譲歩形も，ふたつ並列させてつかうことができる。このときも，～Nbaにすれば強調をうける。

△aNmuNja uqcjaNtīN kītaNtīN ʔkibaraN. あいつはうったってけったってきばらん（はたらかない）。

△aNmuNja uqcjaNtīNba kītaNtīNba ʔkībaraN. 〃

譲歩形の～tīN，～tīNbaのふたつの系列のうち，前者は，にたかたちで奄美諸方言にみられる。語形末の-Nは，それらにてらして-モからよわまったものである。よって，tu:tīN, tutaNtīN, tujutaNtī-Nはトッテモ，トッタッテモ，トリヨッタッテモのようなつくりにあたる。ただし，-Nは，-モにあたる助辞としては，徳之島方言ではいまはつかわない。

一方，tu:tīNba以下のかたちの系列の語形末からとりだされる-Nbaも，徳之島方言では，-モにあたる助辞である。これは，(-N)とちがって，現在，ふつうにつかわれる。ここでは-Nbaのおこりをたずねることはできないが，助辞-Nと-Nbaをくらべたとき，前者のほうがおとろえていることを，あらわれうる語形がきわめてせまいことから，いってよさそうである。また，譲歩形としても，～tīN系列は，すぎさらず譲歩形にみられたように，使用が限定されている。～tīN譲歩形は～tīNba譲歩形よりふるいかたちといえそうだが，それよりふるそうな，(turabaN, tujuribaN)のような条件形＋モのつくりの譲歩形を徳之島方言がふるいおとしていることは，すでにふれた。

譲歩形のテンス制度は，つくりを整理すると，いちおうきれいに，みっつの系列の体系におさまるようだが，この対立がうわべだけのものなのか，内容面にどの程度までくいこんでいるのかは検討を要する。たとえば，シタすぎさり譲歩形ということになっているtutaNtīN, tutaNtīNbaは，標準語トッタッテとおなじく，意味内容の中心がテンスばなれしていることがかんがえられる。ただ，シヨッタッテ譲歩形のtujutaNtīN(ba)は，過去テンスをあらわすことのほうが，おおいかもしれない。

譲歩形のパラダイムを，ここのように三本だてのテンス形式にまとめると，くみたて条件形をのぞいた1次的な条件形を，連用形よりに（つまり標準語に）テンス対立をけした体系ととらえることからとおくなり，つぎにあつかう接続形のテンス対立にちかくなる。これは対象を客観的にとらえきれないで，主観的なワクぐみとして区別しているだけというおそれがある。しかし，かりに形式的なテンス対立で譲歩形が接続形よりだったとしても，内容面の対立までそれにちかいかは保証のかぎりでない。また，譲歩形が，つくりの上で，tu:tī-N(ba)のように，連用形をベースにしたかたちを主にしているところは，条件形とおなじく，連用形からの派生関係をしめしている。この点でも，譲歩形は，条件形とおなじく，おおきくは連用形周辺のかたちとして位置づけられるようにおもわれる。

なお，シタッテ譲歩形tutaNtīN(ba)は，～トイッテに由来する引

Hosei University Repository

用形式とは，徳之島方言では形式上の区別がある。後者 tujutaNcjī-Nba トリヨッタトモの用例をあげておく。

△arī:ja nai tujutaNcjīNba ʔja:raNja:. かれはなえをとったともいえないねえ。

うちけし動詞譲歩形	
～tīN 形	turada:tīN
～tīNba 形	turada:tīNba

うちけしの譲歩形は，うちけしの旧連用形の turada:tī をベースに，それに新旧の -モにあたるかたち -Nba, -N を膠着させてつくる。肯定譲歩形とちがって，つくりのうえでのテンス的な対立はない。～tīN と～tīNba では，肯定譲歩形のすぎさらず系列にみられたのとおなじく，～tīN のほうが使用の範囲がせまいようである。なお，うちけし条件形には turaNba があることはあったが，これを土台にした（turaNbaN）のような譲歩形はない。

△tu:tīN turada:tīN ʔtīcīmuNda:. とってもとらなくてもおなじことよ。

△mīzī: nē:rada:tīNba sjutī:cīja karīraNda:. みずをやらなくてもそてつはかれないよ。

△aN ʔcju:ja ʔkibarada:tīNba ka:dī ikajuNda:. あのひとははたらかなくてもくっていけるよ。

△turada:tīNba kamoNda:. とらなくてもかまわんよ。

(6) 接続形

標準語の接続形は，-シ，-ガ，-ケレドモ，-カラ，-ノニ，-ノデのような接続助辞が，動詞要素に膠着してできたかたちである。接続形をになう動詞要素は，～シ，～ガ，～ケレドモ，～カラのばあい，～シで代表させると，スルシ，シタシのテンス対立のほかに，スルシ，スルダロウシのムード対立ももつ。この点でこれらは，終止形叙述法のテンス，ムードの対立とおなじである。～ノニ，～ノデは，これに対して，テンスで対立するが，ムードでは対立しない。テンスのカテゴリーだけで，ムードのカテゴリーをもたないところは，～ノニ，～ノデは連体形（および動名詞）ににている。

奄美諸方言の接続形は，つくりの動詞要素の出発点として，連体形，動名詞，さらに apocopated form をかんがえることができる。これらの語形は，テンスの対立はあっても，ムードの対立がないのだが，たとえば喜界島方言などでは，逆接系統の接続形は，標準語同様，テンスのほかに（tujuNŋa－tutaNŋa...），ムードのカテゴリーをそなえて（tujuNŋa–tujuroonja ほか），全体として終止形っぽくなっ

肯定動詞接続形				
機能＝意味 ＼ テンス		すぎさらず	シタすぎさり	シヨッタすぎさり
逆接形	動名詞逆接形	tuju:sīga	tuta:sīga	tujuta:sīga
	モノ逆接形	tujuN muN	tutaN muN	tujutaN muN
順接形		tujuNkī:tī	tutaNkī:tī	tujutaNkī:tī
順接＝前提条件形	コト順接＝前提条件形	——	tutaqtu	tujutaqtu
	～kja: 順接＝前提条件形	——	tutaNkja:	tujutaNkja:
	muN na:tī うめあわせ順接＝前提条件形	tujuN muN na:tī	——	——

Hosei University Repository

てきている。

徳之島方言の接続形は，この点で，逆接的，順接的のような意味にかかわりなく，連体形—動名詞系列と同様に，ムードの対立をもたず，テンスのカテゴリーしかない。

逆接の接続形 tuju:sīga, ... は，動名詞 tuju:sī を，つくりの土台にしている。奄美諸方言にもひろく分布するが，奄美大島北部方言や喜界島方言ではきかれない。

△waga nai tuju:siga ʔja:ja ʔwī:rījo:. わたしがなえをとるけど，きみはうえろよ。

△waga nai tuta:sīga ʔwī: 'ita:mī. わたしがなえをとったがうえやすいが。

△waNba wa:haija tujuta:sīga ʔnaNbē:ja turaraNgë:sī na:tīda:. わたしもわかい（ころ）はとりよったけど，いまは（コノゴロハの意）とれないようになったよ。

この tuju:sīga 以下は，おなじ逆接の tujuN muN... でおきかえることができる。モノ系の逆接接続形も奄美諸方言に比較的みられるが，tujuN muN, tujumuN のようなかたちが，動名詞として，tuju:sīga 系の -sī をつかうかたちと共存していたり，そのあとがまにすわっていたりすることもある。徳之島方言にもみられるようだ。tujuN muN... もやはり動名詞と縁のふかい接続形であることは tuju:sīga と同様である。

△waga nai tujuN muN ʔja:ja ʔwī:rījo:.（訳文省略）

△waga nai tutaN muN ʔwī: 'ita:mī.

△waNba wa:haija tujutaN muN ʔnaNbē:ja turaraNgë:sī na:tīda:.

順接接続形には tujuNkī:tī, tutaNkī:tī, tujutaNkī:tī の系列である。

この順接形は，他のコト形，—kja: 形，muN na:tī 形とちがって，順接と前提条件的なはたらきとを共有していない。文末の述語に命令形をだすこともできるところは，標準語のスルカラ接続形ににている。

△waga kurīka: tujuNkī:tī maqcjurījo:. わたしがこれからとるから，まっていろよ。

△sjakī: numjuNkī:tī ʔjaNba kaN kwa:. さけをのむからきみもここへこい。

△urīja waga tutaNkī:tī ʔja:ja turada:tīNba kamoNda:. それはわたしがとったから，きみはとらなくてもかまわないよ。

△ʔja:ja wa:haija sjakī: numjutaNkī:tī, urī:ja ʔjaga nu:mjo:. きみはわかいころさけをのみよったから，それはきみがのめよ。

前提条件的につかわれる tutaqtu トッタノデ，トッタトコロガ，tujutaqtu トリヨッタノデ，トリヨッタトコロガは動詞の apocopated form をもつ（tutakutu, tujutakutu）から -kut... の無声化をへて促音化したものとおもわれる。与論島方言では tutakutu トッタカラ，tutakuta:（<トッタコトハだろう）トッタトコロガのようなつかいわけがあるが -ku- がたもたれている。徳之島方言のかたちは奄美大島方言などとおなじである。また，徳之島方言の tuju:tu というかたちが，意味のうえで～スルトであって，～スルノデにならないため，つくりのうえでの関係は別として，スルト条件形として，コト前提条件接続形からはずしたのは，標準語のスルト条件形に過去形がないことにひきずられているのかもしれない。コト接続形は前提条件をしめすとともに，順接的にもはたらく。さいごの例

Hosei University Repository

のように，コト形でいいさすこともできる。

△naija arī:ga tutaqtu ʔna: nīNda:. なえはかれがとったので，もうないよ。

△jama izjaqtu, mazjuNnu 'utī:da:. やまへいったところがハブがいたよ。

△arīNba nēsjē: aija wazjawai nai tujutaqtuja:. かれも青年(の)ころはだいぶなえをとりよったからね。

-kja: 前提条件接続形も，すぎさらず形をかくことは，コト接続形と同様である。ただしここでも，tujuNkja 形は，スルマデ連用形のところに籍をおいている。機能＝意味的なまとまりのなさは tujuNkja と tutaNkja:, tujutaNkja: とをくらべたときのほうが，tuju:tu−tutaqtu, tujutaqtu のばあいより，いっそうあきらかである。-kja: 接続形をコト接続形とくらべると，肯定接続形では -kja: 形のほうに前提条件的にはたらくことがめだつようだが，前提条件をさしだすはたらきとかさなって，対比＝逆接的なニュアンスもくっついてきているかもしれない。2番めの例文のtutaNkja:は，tuta:sīga としても，それほどちがいは感じられない。訳文〜ケドでそれをしめすが，逆接形は基本的には tuju:sīga で代表される。なお，あることはあるかたち，tujujutaNkja: はトリヨッタトコロガの意味で，対比＝逆接的なニュアンスはない。

△naija arī:ga tutaNkja: ʔna:nīNda:. なえはかれがとったのでもうない。

△kurī:ja waga tutaNkja: 'ita:rukaja:. これはわたしがとったけどいいかねえ。

△nēsjē aija tujutaNkja:, ʔna: sja:raNda:. 青年のころはとりよったけど，いまはできないよ。

なお，つぎの〜kja: の例は，いいさし的，対比＝逆接的なことにくわえて，すぎさらず形からできていることが注意される。

△arī:ga nai tuju:tu sīnugīrajuNkja:. かれがなえをとるとはかどるけど。

分析的なくみたて接続形 tujuN muN na:tī はすぎさり系列をもたず，すぎさらず形でしかつかわない。この点で，すぎさらず形をかくコト接続形，-kja: 接続形の両方，あるいはどちらか一方と相補分布をなしていることがかんがえられる。順接的にはたらくが，うしろにつづく述語に命令やさそいかけ的なものはあらわれない。

△ʔja:ga tujuN muN na:tī waNja mugēraraNda:. きみがとるものだから，わたしはうごけないよ。

△arī:ga sjakī: numjuN muN na:tī icīNba torotuNda:. かれがさけをのむものだから，いつもけんかをしているよ。

うちけし動詞接続形			
機能＝意味 ＼ テンス		すぎさらず	すぎさり
逆接	動名詞起原形	turaNsīga	turadata:sīga
順接	コト形	———	turadataqtu
	〜kja: 形	———	turadataNkja:
	muN na:tī 形	turaN muN na:tī	———

Hosei University Repository

うちけしの接続形は，動名詞接続形のすぎさらず，すぎさり，コト接続形，-kja: 接続形のすぎさり，それに，分析的なかたち muN na:tī 接続形のすぎさらずである。

肯定系列とくらべて重要なちがいは，むこうにあった順接接続形 tujuNkī:tī が，うちけし系列にはあらわれないことである。このため，肯定接続形では，一般条件的な機能＝意味をしょいこまされて不安定だったコト接続形と -kja: 接続形とが，うちけし系列ではともに順接接続形に「昇格」して，内容的にもほとんどちがわないものになった。このため muN na:tī 形は，コト形，-kja: 形のどちらの欠落をおぎなっているのかをかんがえる必要はない。そしてこのかたちがないと，順接現在の表現ができなくなる。

うちけし接続形では，逆接的な動名詞起原形の用法に，接続形のコト形，-kja: 形にみられた，機能＝意味上の不安定さが転移しているようにみえる。二番めの例文参照。

△waNja turaNsīga ʔjaga tutaNna:mī. ぼくはとらないが，きみがとったのではないか。

△ʔjaga turaNsīga taga tui. きみがとらないとだれがとる（＝きみよりほかにとるひとはいない）。

△waNja turadata:sīga taga tutaNgaja:. わたしはとらなかったが，だれがとったかなあ。

△ʔjaga nai turadataqtu ju:ga: ʔkwa:cja:ga. きみがなえをとらなかったので日までくれさせた（くれた）が。

△ʔjaga nai turadataNkja: ʔwa:rīta:ga:. きみがなえをとらなかったので（しごとに）おわれたが。

△ʔjaga: turaN muN na:tī waga tu:tīda:. きみがとらないものだから，わたしがとったよ。

徳之島方言には，～スルシにつくりのうえで対応する接続形がないが，それに相当するはたらきは，非 m 語尾ヲリ終止形の tujui がになっている。うちけし系列でも tura:zī をつかうことができる。（うちけし系列の例文は(2)連用形のところですでにだした）。

△arī:ja sja:kīNba numjui, ta:kuNba hukjuNda:. かれはさけものむしタバコもすうよ。

徳之島方言の接続形に，～スルダロウケド，～シタダロウカラのような推量法のかたちがみられないことは，まえにのべたが，形式名詞 ha:zī をもちいた，tujuN ha:zī ja:sīga トルダロウケレド，tutaN ha:zī ja:sīga トッタダロウケレド，tujutaN ha:zī ja:sīga トリヨッタダロウケレド，および，turaN ha:zī ja:sīga トランダロウケレド，turadataN ha:zī ja:sīga トラナカッタダロウケレド…のような，根拠のある推定をあらわす接続形はある。ただし，これらは，形式名詞＋コピュラのくみたての，名詞述語形式になっているので，本稿では省略した。

(7) 動名詞，旧連用形

動名詞 tuju:sī... は，接続形 tuju:sīga... のベースになっていることはもちろん，同音形式として，終止形に移籍している tuju:sī... もある。派生の順序を記述のさいに考慮すると，もっとはやくあつかうべきかもしれない。動名詞のつくりは，肯定形は，apocopated form の tuju:-, tuta:-, tujuta:- に -sī をつけてできる。うちけし過去の

Hosei University Repository

turadata:sī も同様である。うちけし形すぎさらずの turaNsī は，turaN が，連体形相当（終止形とも同音の）なので，apocopated form をもちだす必要はない。動名詞をつくる接辞の-sī は，他の奄美諸方言には，wa:s ワガモノ，na:s アナタノモノ（奄美大島南部方言）のようなかたちでもつかうことがあるが，このいいかたは徳之島方言にはない。

ところが，この tuju:sī 動名詞は，徳之島方言では，ことわざのようなかたちの表現にあるだけで，例はすくない。だとすれば，転出さきの tuju:sī 終止形のほうが，いまでは tuju:sī の中心機能をになっているのだろう。こうした傾向は，奄美大島南部方言と共通している。

△tuju:sīga kacī:. とるのがかち。

こうみてくると，徳之島方言の動名詞の代表としては，べつのかたちをさがしだす必要がある。ここでも，奄美大島南部方言と同様の傾向をみてとれば，tujuN muN... のようなモノ動名詞をさがしあてることができる。このかたちは，モノがまだいきているばあいもおおいようである。

△arīnēqsjī ʔkibajuN muNja 'uraN. かれのようにはたらくものはいない。

△kī:ka:ʔcī nuqtaN muNja taru:gaʔjī:. 木へのぼった(も)のはだれかね。

△aNnaN nja:jun nu:ga. むこうにみえる(も)のはなにか。

△ʔjaga: ʔjuN muNja anaN muNʔcjīdu omojuNda:. きみがいうのはうそだとおもうよ。

△ʔjaga: sjakī: numaN muNja nu: na:tīga. きみがさせをのまないのはなぜか。

△jamatuka:cī ikaradataN muNja nu: na:tīga. 本土へいけなかったのはなぜか。

奄美大島南部方言の老年層以外や大島中部方言にみられる，肯定動名詞で，apocopated form から muN につながるかたちは，徳之島方言でも，浅間方言にはみられないが他地域にはみられる。うえの muN 動名詞の例文のいくつかは，『琉球の方言』5の井之川の例文から借用したが，井之川方言は，apocopated form＋muN である。

動名詞にはテンスの対立があるが，テンスの対立をつくらない旧連用形 tui が名詞的にはたらくばあいも，動名詞の用法とかさなるところがでてくる。旧連用形が終止的につかわれるばあいには前稿であげたが，非終止的な用法の一部は動名詞的である。これも前稿でふれた。これにあたるうちけし形はない。

△zī: kaki:ja zjo:zī:da:. 字をかくのはじょうずだよ。

△jamaka:cī iki:ja ba:da:. やまへいくのはいやよ。

△waNja iki:ja sī:naNda:. わたしはいくことはしないよ。

いままでにあつかった語形づくりにくわわっているばあいもふくめて，非終止的な旧連用形の例をたしておく。ここにも動名詞的なものがあるようだ。

△ʔja:ja nuNba sjaNgoN numibēNdu sju:sī. きみはなんにもしないで，のむことばかりしているじゃないか。

△naija tuiga: iraNda:. ʔkinu:naNtī tu:tī aNda:. なえはとりまで（＝

Hosei University Repository

トルコトマデ）いらないよ。きのうでとってあるよ。

△ʔjaga: nai tui na:tīka waNja ʔwī:ra:jī. きみがなえをとるならわたしはうえようね。

△nai tuiga kwa:. なえをとりにおいで。

つぎの例は派生形容詞つくりにつかわれている。

△waNja ʔna: numiʔcja:ku nīNda:. わたしはもうのみたくないよ。

つぎは引用や不定句のなかの準終止的な例。

△acja:ja nai tuiʔcjī icju:tīda:. あしたはなえをとるといっていたよ。

△kuN naija taga tigadaN atī: nīNda:. このなえはだれがとるのかわからんよ。

つぎのも中止＝終止的だろう。二番めは名詞＝中止的か。

△sjakī:ja numi:du, numi: anaNdu. さけはのむのか，のまないのか。

△waNja nai tui, arī:ja ta:ʔwī:da:. わたしはなえとり，かの女はたうえだ。

以上の tuju:sī 動名詞，tujuN mun 動名詞，それに旧連用形の tui を表にあげておく。

肯定動名詞			
種類＼テンス	すぎさらず	シタすぎさり	シヨッタすぎさり
～sī 動名詞	tuju:sī	tuta:sī	tujuta:sī
モノ動名詞	tujuN muN	tutaN muN	tujutaN muN

うちけし動名詞		
種類＼テンス	すぎさらず	すぎさり
～sī 動名詞	turaNsī	turadata:sī
モノ動名詞	turaN muN	turadataN muN

旧連用形	
肯定	tui
否定	——